



Silk Performer 21.0

インストールガイド

Micro Focus
The Lawn
22-30 Old Bath Road
Newbury, Berkshire RG14 1QN
UK
<http://www.microfocus.com>

© Copyright 1992-2020 Micro Focus またはその関連会社。

MICRO FOCUS、Micro Focus のロゴおよび Silk Performer は、Micro Focus またはその関連会社の商標または登録商標です。

その他、記載の各名称は、各所有社の知的所有財産です。

2020-10-21

目次

はじめに	4
システム要件	4
パフォーマンスとスケーラビリティ マトリクス	5
Silk Performer のライセンス	7
オンプレミス ライセンス	8
Silk Performer ライセンスの生成	8
ホスト ID を調べる	9
Silk Meter のインストール	9
ライセンス設定を変更する	10
オンライン ライセンス	10
Silk Performer SOA Edition のライセンス	11
Silk Performer のインストール	12
完全インストール	12
エージェントのみのインストール	14
SOA Edition のインストール	15
サイレント モードでの Silk Performer のインストール	17
オプション コンポーネントのインストール	20
TrueLog Explorer のインストール	20
サイレント モードでの TrueLog Explorer のインストール	20
ネットワーク エミュレーション ドライバのインストール	20
Visual Studio 拡張機能のインストール	21
Eclipse プラグインのインストール	21
ShopIt V 6.0 のインストール	22
リモート コンピュータ上でエージェント ソフトウェアのインストール	23
リモート インストール	23
シナリオ	25
シナリオ 1 : 1 つのドメインまたはワークグループ	25
シナリオ 2 : 2 つのドメインまたはワークグループ	26
シナリオ 3 : ユーザーがローカルにログオンする	26
シナリオ 4 : インターネットを利用して接続された 2 つの LAN	27
シナリオ 5 : HTTP プロキシを利用して接続された 2 つの LAN	28
シナリオ 6 : SOCKS プロキシを利用して接続された 2 つの LAN	28
トラブルシューティング	29

はじめに

このヘルプでは、Silk Performer をインストール/アンインストール、および、負荷テスト環境を準備をする際に必要な情報を提供します。ハードウェア、ソフトウェア、OS の要件、および、インストールの代替オプションなどについても説明します。

Silk Performer をインストールする前に、セットアップ ウィザードは インストールや使用時に必要なすべてのソフトウェアがコンピュータ上にインストールされているかどうかを確認します。インストールされていない場合、セットアップ ウィザードは不足したソフトウェアをインストールするための選択肢を提示します。

システム要件

以下のセクションでは、Silk Performer をインストールして実行するためのシステム要件について説明します。

Silk Performer のエージェント ソフトウェア、もしくはコントローラとエージェントの両ソフトウェアを実行し、大規模負荷テストを実行するために Silk Performer のポテンシャルを最大限に利用するには、お持ちのシステムが次の最小要件を満たしている必要があります。自作機 (ベアボーンキット、ショップブランド機を含む) は動作保証外です。

ハードウェア要件

システム領域	要件
プロセッサ	Intel Core 2 Duo、または同等の CPU
RAM	4 GB
ハード ディスク領域	コントローラ ソフトウェア インストールに 2.5 GB エージェントのみをインストールする場合に 1 GB 行う負荷テストのサイズに応じて、その結果ファイルのための十分な空き容量がお使いのハードディスク上にあるかどうか確認してください。
ネットワーク	テスト対象システム、および、すべての Silk Performer エージェント コンピュータとのネットワーク接続。

オペレーティング システムの要件

- Silk Performer コントローラ、および Silk Performer エージェントは、Microsoft Windows 8.1 以降、または Microsoft Windows Server 2012 以降にインストールできます。
- ネットワーク エミュレーション ドライバのインストールは、現時点では Microsoft Windows 10、および Microsoft Windows Server 2016 と 2019 をサポートしません。

ソフトウェア要件

Silk Performer をインストールし、実行するには、お持ちのシステムに、最小限のソフトウェア コンポーネント群が必要となります。

必要とされるコンポーネントは、インストールの種類によって異なります。たとえば、Silk Performer Java Explorer を実行するには、適切な Java Development Kit がシステムにインストールされている必要があります。それぞれの Web サイトからコンポーネントをダウンロードしてください。

- Internet Explorer 11、Google Chrome、Mozilla Firefox、Microsoft Edge、Opera (ブラウザ駆動型負荷テスト用)
- ドキュメント参照用の PDF ビューア
- Citrix Receiver (Microsoft Windows 4.9.7 (LTSR) 用) 以降 (Citrix アプリケーションのテスト用)
- Java Runtime Environment (JRE) : 64 ビット オペレーティング システムでは、32 ビット版と 64 ビット版の両方をインストールする必要があります。
- Java Development Kit 7、8 (32 ビット) (Java Explorer を使用した Java アプリケーションのテスト用)
- Visual Studio 2015、2017、2019 (Visual Studio 拡張機能用)。

マルチユーザー システム上での Silk Performer での作業


Silk Performer を、マルチユーザーによるアクセスを有効にしたターミナル サービスを提供するマシンにインストールできます。一般に、複数のセッションを同時に作業することは推奨されません。それでも作業する必要がある場合には、次の点にご注意ください。

- **記録:** Silk Performer Recorder はシステム全体のフック機構を使用します。あるユーザーが Recorder を開始すると、すべてのほかのユーザーのトラフィックも同様に記録される可能性があります。
- **Workbench :** 複数のユーザーが同時に異なるプロジェクトで作業することができます。同じプロジェクトで作業することは推奨されません。2 番目以降のユーザーに対しては、プロジェクトは読み取り専用モードで開かれます。
- **テストの実行 :** 複数のユーザーが 1 つのマシンから同時にテストを実行できます。ただし、テストを同時に複数実行すると、同じリソース (CPU、メモリ、ネットワークバンド幅) を共有するため、互いに影響を与えます。
- **テストの監視 :** Performance Explorer は、テストを実行している複数のテスト測定値間の違いを区別しません。よって、誤ったテストのリアルタイム値が表示される可能性があります。


パフォーマンスとスケーラビリティ マトリクス

エージェントごとの最大仮想ユーザー数


以下のテーブルに、エージェント コンピュータのハードウェア リソースとテストする Web アプリケーションの種類に基づく、エージェント コンピュータあたりの推奨最大仮想ユーザー数を示します。

 **注:** SSL を使用したアプリケーションのテストでは、可能な仮想ユーザー数が 35% 減少します。[エラー時に TrueLog を生成する] を有効にしたテストでは、可能な仮想ユーザー数が 30% 減少します。低レベルの API (Web 低レベル) を使用した Web アプリケーションのテストでは、可能な仮想ユーザー数が 20% 増加します。

システム	OS	Web ビジネス アプリケーション	SSL による Web ビジネス アプリケーション (-35%)	TrueLog On Error (-30%)	SSL による TrueLog On Error (+20%)	Web 低レベル (+20%)
Intel Xeon Quadcore 3 GHz、16 GB RAM	Windows Server 2008 R2	6500	4225	4550	2958	7800
Intel Core i7 Quadcore 2.8 GHz、8 GB RAM	Windows 8.1	6500	4225	4550	2958	7800
Intel Core2 Duo 3 GHz、4 GB RAM	Windows 7 Enterprise	4700	3055	3290	2139	5640

 **注:** Web ビジネス アプリケーションは、ページレベル API (HTML/HTTP) を使用します。Web 低レベルは、低レベルの API (HTTP) を使用します。

クラウド エージェントあたりの仮想ユーザー数

 **注:** クラウドベース エージェントあたりの最大仮想ユーザー数は、テストするアプリケーションの種類に関係なく 1,000 となります。

以下のテーブルに、テストするアプリケーションの種類に基づいて、クラウド ベースのエージェントで通常サポートされる仮想ユーザー数を示します。

テスト対象アプリケーション	クラウド ベースのエージェントでサポートされる仮想ユーザー数
ブラウザ駆動型負荷テスト	5
Java/.NET	250
セキュア Web (SSL)	600
Web	800

テスト パラメータ

上の表の数値は、以下のような特徴を持つ現実的なワークロードを使用して決定したものです。

- リクエストされる全 Web ページのページ構成は、一般的な公開 Web ページ相当とする。
- 仮想ユーザーのページ ビュー間の平均思考時間は 32 秒であった。
- 1 人の仮想ユーザーは、4 つ同時使用接続によってエミュレートされた。

つまり、シミュレートされる仮想ユーザー数は、1 つの一般的な Web サイトに同時にアクセスしている実際のユーザー数に相当し、次のような結果になります。

- ページあたりの平均ヒット数 : 39
- 平均ページ サイズ : 130 KB
- ページ間の平均思考時間 : 32 秒

Web プロトコル仮想ユーザーのエージェント容量


Silk Performer は以下のパラメータを考慮した公式を使用して、マシンの容量を決定します。

- CPU 数
- CPU ごとのコア数
- CPU 速度
- メモリ サイズ

結果は、対応するパラメータを持つエージェント マシン上で Web プロトコル スクリプトを実行できる仮想ユーザーの数で表されます。

他の仮想ユーザー タイプのエージェント容量

特定のエージェント マシン上で実行可能な仮想ユーザー数を決定するために、使用するテクノロジーに依存する特定の係数で Web プロトコル仮想ユーザー数に重み付けを行います。

 **注:** 一部のテクノロジーでは、CPU やメモリの制限というよりも単に OS の制限事項により、仮想ユーザーの最大数がマシンごとに定義されます。

Silk Performer のライセンス

Silk Performer のライセンス モデルは、仮想ユーザー (VUser) に基づきます。

Silk Performer Workbench を起動して使用するためのライセンスは必要ありません。ライセンスが無くても、スクリプトを作成したり、カスタマイズしたり、負荷テストの設定を変更することができます。また、スクリプトの試行やベースラインの実行などの 1 つの仮想ユーザーのみの実行にも、ライセンスは必要ありません。

負荷テストの実行を開始すると、実行に使用される仮想ユーザーに対してライセンスが必要になります。

Silk Performer には、2 種類のライセンス モデルがあります。

- オンプレミス ライセンス
- オンライン ライセンス

以前のバージョンの Silk Performer からアップグレードした場合、新しいバージョンで負荷テストを実行するには、新しいライセンスが必要です。アップグレードの過程では、90 日間古いライセンスを使用できます。

Silk Performer には、3 種類の仮想ユーザー タイプがあります。それぞれのタイプでさまざまなアプリケーションの種類をシミュレートできます。

- Web
- Standard
- Premium

VUser タイプ	アプリケーションの種類
Web	Web ブラウザ駆動 GUI レベル テスト (選択した Web ブラウザを使用した単一セッション モード) HTTP(S) (Web ブラウザ低レベル) HTTP(S)/HTML (Web ブラウザ高レベル) HTTP(S)/XML (Web サービス, SOAP) HTTP ライブ ストリーミング (HLS) Silverlight モバイル SAP NetWeaver WebDAV (MS Outlook Web Access) 電子メール (SMTP/POP) FTP TCP/IP UDP AMF0/AMF3/FLEX Java over HTTP DLL インターフェイス
Standard	Web すべてとそれに加えて :

VUser タイプ	アプリケーションの種類
Premium	Visual Studio 拡張機能 Java Add-On DB2-CLI Add-On OCI Add-On ODBC Add-On Visual Basic Add-On (Framework) ディレクトリ サーバー (LDAP) CORBA Add-On 標準 すべてとそれに加えて : GUI レベル テスト (UFT Developer (Silk4J)、UFT Developer (Silk4NET)、Silk Test Classic) Remedy Web ARS SAPGUI Add-On for Silk Performer Oracle Applications/Forms Add-On PeopleSoft Add-On Siebel Add-On Citrix Add-On ターミナル エミュレーション (グリーン スクリーン) Add-On Tuxedo/ATMI Add-On

オンプレミス ライセンス

オンプレミス ライセンスとして、Silk Performer は 2 種類のライセンスを提供します。

- スタンドアロン ライセンス
- フローティング ライセンス

フローティング ライセンスは、ライセンスをライセンス サーバーにインストールすることによって、ユーザー間でライセンスを共有することができます。スタンドアロン ライセンスは、特定のマシンに結び付けられます。Silk 製品では、Silk Meter と Micro Focus AutoPass の 2 種類のライセンス管理テクノロジーを利用できます。Silk Meter は、従来のライセンス管理テクノロジーで、スタンドアロン ライセンスとフローティング ライセンスの両方をサポートします。AutoPass の場合は、現時点ではフローティング ライセンスのみをサポートします。ただし、AutoPass では、使いやすい使用状況のレポート機能を利用できます。

次の点にご注意ください。

- 複数のライセンス サーバーがある場合は、それぞれのライセンス サーバーに結び付けられたライセンスを含んだ複数のライセンス ファイルが必要となります。
- Silk Performer ライセンス ファイルを受け取っている場合は、そのファイルをライセンス サーバーにインストールします。
- ライセンス ファイルを受け取っていない場合は、オンラインのライセンス生成プログラムを使って生成します。

Silk Performer ライセンスの生成

Silk Performer で負荷テストを実行するには、有効なライセンスが必要です。Silk Performer を購入すると、オンラインのライセンス生成プログラムを使用してライセンス ファイルを生成できます。オンライン

のライセンス生成プログラムにアクセスするには、Firefox や Chrome などの SSL 対応ブラウザが必要です。ライセンス ファイルの生成方法に関する指示が含まれた電子メールを受け取ります。これらの指示がなかった場合は、<http://support.microfocus.com> でカスタマー ケアにお問い合わせください。

ホスト ID を調べる

ライセンスは、フローティング ライセンスの場合はライセンス サーバーに、スタンドアロン ライセンスの場合は Silk Performer コントローラ マシンに結び付ける必要があります。ライセンスとマシンを結びつけるには、ホスト ID が必要です。Silk Meter では、ホスト ID は LAN カードの MAC アドレスであり、次の方法で調べることができます。

1. ライセンスをインストールするマシン上でコマンド プロンプトを開いて、コマンド ipconfig/all を入力します。ネットワーク アダプタとさまざまな情報が表示されます。
2. LAN カードの MAC アドレスまたは物理アドレスであるホスト ID (00-BF-00-1C-D3-3D など) を確認します。



ヒント: 仮想マシンや VPN 接続が設定されている場合など、システムの設定によっては、コンピュータに異なる MAC アドレスを持つ複数のネットワーク アダプタが存在することがあります。物理 LAN カードのホスト ID を確認してください。

AutoPass ライセンス サーバーでは、ホスト ID はロックコード と呼ばれ、**インストール** タブの **ライセンス** メニューに表示されます。AutoPass ライセンス サーバーのインストールと使い方については、Micro Focus Marketplace の対応する製品ページを参照してください。

Silk Meter のインストール

Silk Meter ライセンス ファイルをお持ちの場合は、Silk Performer をインストールするときにライセンス もインストールできます。有効な Silk Performer ライセンスをお持ちでない場合は、オンラインのライセンス生成プログラムを使用してライセンス ファイルを生成してください。

ライセンス サーバー上に Silk Meter をインストールして実行するためには、ライセンス ファイルは必要ありません。しかし、Silk Performer の負荷テストを実行する前に、ライセンス ファイルをインポートする必要があります。Silk Meter **Policy Administrator** を使用してライセンス ファイルをインポートできません。

複数のライセンス サーバーがある場合は、それぞれのライセンス サーバーに結び付けられたライセンスを含んだ複数のライセンス ファイルが必要となります。1 つの Silk Meter ライセンス サーバーで、複数の製品のライセンスを管理できます。

Silk Meter ライセンス サーバーの要件

Silk Meter をインストールする前に、リリース ノートを参照して、ライセンス サーバーが要件を満たしていることを確認します。

以前のバージョンの Silk Meter をアンインストールする

Silk Meter の以前のバージョンがライセンス サーバーにインストールされている場合は、最新バージョンの Silk Meter をインストールする前にアンインストールする必要があります。

1. **スタート > すべてのプログラム > Silk > Silk Meter > Uninstall** を選択します。
2. **Yes** をクリックして Silk Meter をアンインストールします。**Remove Settings** ダイアログ ボックスが開きます。
3. **No** をクリックした場合には、Silk Meter の設定が保持されます。



注目: 現在、Silk Meter ライセンス サーバー上に存在するライセンス ポリシーを維持するには、**No** をクリックしなければなりません。

4. コンピュータを再起動します。

Silk Meter がアンインストールされ、最新バージョンの Silk Meter がインストール可能になりました。

ライセンス サーバー上へ Silk Meter をインストールする

Silk Meter をインストールする前に、以下の情報を確認してください。

- ユーザー アカウントに管理者権限があること。
- Silk Meter のインスタンスがライセンス サーバーにインストールされていないこと。

1. [製品更新サイト](#) を開いて、Silk Meter を検索します。
2. 最新の **Silk Meter インストール ファイル** をダウンロードし保存します。
3. EXE ファイルを保存した場所まで移動して、ダブルクリックします。標準インストールの場合、デフォルトのオプションで Silk Meter インストール ウィザードの指示に従ってください。



重要: セットアップによってコンピュータを再起動することを要求された場合は、コンピュータを再起動します。

ライセンス設定を変更する

ライセンス設定ツール を使用して、ライセンス設定を変更できます。このユーティリティは、Silk Performer セットアップによってインストールされます。

1. **スタート > すべてのプログラム > Silk > Silk Performer21.0 > ライセンス設定ツール** を選択します。
2. **アプリケーション** リスト ボックスから、ライセンス設定を変更する製品を選択します。
3. 使用するライセンス テクノロジとして、Silk Meter または AutoPass を選択します。
4. **Licensing mode** では、**Use a license server** (ライセンス サーバーを使用する) または **Use standalone licensing** (スタンドアロン ライセンスを使用する) を選択します。



注: スタンドアロン ライセンスは、Silk Meter の場合にのみ使用できます。

5. ライセンス サーバーを使用する場合は、Silk Meter または AutoPass ライセンス サーバーのコンピュータ名を **Host** フィールドに入力します。
ネットワーク管理者が別のポートを定義したのでないかぎり、**Port Number** は変更しないでください。デフォルトのポート番号は、Silk Meter の場合は 5416 で、AutoPass の場合は 5814 になります。
6. **Apply** をクリックして、ライセンス設定をアクティブ化します。
7. ライセンス サーバーを使用する場合は、**Test Connection** をクリックして、指定したホストとポートでライセンス サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。接続に成功すると、**Status** フィールドに SUCCESS メッセージが表示されます。



注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** フィールドに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。Silk Meter ライセンス サーバーとの接続に失敗しました というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

8. **Close** をクリックして、ライセンス設定を完了します。

オンライン ライセンス

オンプレミス ライセンスのほかに、オンライン ライセンスを取得することもできます。これは、CloudBurst アカウントから Micro Focus クレジットを使用してライセンスを購入することを意味します。

負荷テストを実行する際に、オンプレミス ライセンスとオンライン ライセンスの両方を使用するか、オンプレミス ライセンスだけを使用するか、オンライン ライセンスだけを使用するかのいずれかを、Silk

Performer で設定することができます。メニューから **設定 > システム** をクリックし、**ライセンス管理** タブをクリックして、**ライセンス オプション** で使用する設定を選択します。

所有するオンプレミス ライセンスの数を調べるには、メニューから **ヘルプ** をクリックし、**Silk Performer のバージョン情報** をクリックします。たとえば、**50 Virtual Users (Web)** オンプレミス ライセンスが利用可能な状態で、計画している負荷テストでは 60 仮想ユーザーを必要とする場合には、オンライン ライセンスを使用すれば 10 仮想ユーザーの不足分をすばやく補うことができます。

追加の仮想ユーザーが急に必要になった場合や、一部の負荷テストで思いがけずに仮想ユーザーがさらに必要になった場合、あるいは、期間限定で大量の仮想ユーザーが必要になった場合などに、オンライン ライセンスは特に便利に使用できます。オンライン ライセンスは、簡単にすばやく仮想ユーザー数を増加することができます。

オンライン ライセンスは 24 時間有効です。ライセンスを最初に使用したときに、有効期間のカウントが始まります。オンライン ライセンスの料金についての情報は、「*CloudBurst* 負荷テストの料金」トピックの「仮想ユーザーのライセンス料金」セクションを参照してください。

Silk Performer SOA Edition のライセンス

Silk Performer SOA Edition について

Silk Performer SOA Edition (Service Oriented Architecture) は、Web サービスやリモート Java/.NET コンポーネントなどのリモート サービスや API のテストを対象を絞ったエディションです。

SOA Edition のライセンスの動作について

SOA Edition は完全な Silk Performer インストールですが、SOA Edition ライセンスによって制限されます。このライセンスで、次のことが可能になります。

- 最大 5 仮想ユーザーまでの負荷テストの実行
- .NET または Java テストの実行
- 基本的な Web および XML テストの実行

SOA Edition を使ってテストできる対象

リモート コンポーネントをテストするには、最初にテスト クライアントを作成する必要があります。テスト クライアントを作成するために、Silk Performer は次のアプローチを提供します。

- Java Explorer を使ったビジュアル作成 (プログラム不要)
- .NET Explorer を使ったビジュアル作成 (プログラム不要)
- 既存のテスト クライアントの記録
- JUnit テストのインポート
- NUnit テストのインポート
- Java クラスのインポート
- .NET クラスのインポート

Silk Performer のインストール

Silk Performer のインストールには、次の 3 種類のオプションがあります。

- 完全インストール
- エージェントのみのインストール
- SOA Edition のインストール

グラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) 形式の標準インストーラでは、インストール時にこれらのオプションを選択できます。GUI を表示せずにユーザー操作なしで Silk Performer をインストールすることもできます。この機能は、「サイレント モード インストール」と呼ばれます。

Silk Performer で負荷テストを実行するには、最低 1 台のコンピュータ上には、完全なソフトウェアをインストールする必要があります。完全インストールには、Workbench、ドキュメント、およびサンプルファイルが含まれます。Workbench は、負荷テスト コントローラとエージェントを含む統合スクリプト開発環境です。他のコンピュータを負荷テスト エージェントとして使用するには、これらのコンピュータ上にエージェント ソフトウェアをインストールします。

完全インストール

Silk Performer の完全インストールでインストールされる機能は次のとおりです。

- Silk Performer Workbench
- Silk Performer エージェント
- Performance Explorer
- TrueLog Explorer
- Java Explorer
- .NET Explorer
- すべてのサンプル



注: 問題が発生する可能性を避けるため、権限に制約のない管理者アカウントでインストールを実行してください。

1. Silk Performer のインストーラをダウンロードしたら、ダブルクリックしてセットアップ ウィザードを開始します。
2. **著作権情報** ページが開きます。**次へ** をクリックして **開始画面** を読み、再度 **次へ** をクリックします。
3. **使用許諾契約** ページが開きます。使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。使用許諾契約の条項に同意する場合は、**使用許諾契約の条項に同意する** チェック ボックスをオンにして、**次へ** をクリックします。
4. 完全な Silk Performer 環境をインストールするには、**Silk Performer 21.0** インストール セットを選択して、**次へ** をクリックします。
5. **インストールのカスタマイズ** ページが表示されます。インストールするコンポーネントを選択します。
 - **Silk Performer 21.0 Workbench** : このオプションを選択すると、Java および .NET アプリケーションの負荷テストを行うための完全な Silk Performer 環境がインストールされます。
 - **高度なインストール** : このオプションを選択すると、Silk Performer とともにインストールするツールを選択できます。
6. **インストール フォルダの選択** ページが表示されます。インストール フォルダを指定します。
 - a) **選択** をクリックします。
 - b) インストール フォルダを指定します。

c) **OK** をクリックします。

d) デフォルトのインストール フォルダに戻す場合は、**デフォルト フォルダに復元** をクリックします。



注: 製品 (たとえば、Silk Performer や TrueLog Explorer など) のサブフォルダは、自動的に作成されます。



注: Silk Performer は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。

7. デスクトップにショートカット アイコンを作成するかどうかを選択し、**次へ** をクリックします。

8. **インストール前の要約** ページで情報を確認します。

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

インストール中 ページの進捗バーにより、インストール処理の状況が分かります。

9. **ライセンス モードの選択** ページが開きます。次のいずれかのオプションを選択して、**次へ** をクリックします。

- **評価版** - Silk Performer の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。使用は 10 仮想ユーザーに制限されています。後から、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **ライセンス版** - Silk Performer ライセンスが必要な Silk Performer の無制限版をインストールします。

10. インストール中に選択したコンポーネントによっては、**ライセンス オプションの選択** ページが開く場合があります。ライセンス管理を必要とするコンポーネントをインストールしておらず、このページが開かない場合は、次のステップに進んでください。次のいずれかのオプションを選択して、**次へ** をクリックします。

- **ローカルまたはリモート サーバーを使用する** : **ライセンス サーバー ホスト** フィールドに、Silk Meter または AutoPass がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのでない限り、デフォルト ポート番号 (Silk Meter の場合は 5461、AutoPass の場合は 5814) は変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホストとポートで ライセンス サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。



注: 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** フィールドに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。Silk Meter ライセンス サーバーとの接続に失敗しました というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。

- **スタンドアロン ライセンスを使用する** : Silk Meter をスタンドアロンで実行します。**選択** ボタンを使用して、Silk Meter ライセンス ファイルの場所を指定します。

11. **ネットワーク エミュレーション ドライバのインストール** ページが開きます (このページは、Microsoft Windows 10 や Microsoft Windows Server 2016 では表示されません)。ネットワーク エミュレーション ドライバは、パケットの転送遅延や損失をシミュレートするために必要です。ネットワーク帯域幅のシミュレーションには必要ありません。次のいずれかのオプションを選択して、**次へ** をクリックします。

- **ネットワーク エミュレーション ドライバをインストールする**
- **ネットワーク エミュレーション ドライバをインストールしない**



注: ネットワーク エミュレーション ドライバのインストールおよびアンインストール時に、ネットワークが一時的に切断されます。





注: ネットワーク エミュレーション ドライバは、すべてのネットワーク アダプタと互換性があるわけではありません。互換性がない場合、マシンまたはネットワークにアクセスできなくなり、ネットワーク速度が低下する場合があります。



注: ネットワーク エミュレーション ドライバは、Microsoft Windows 10 および Microsoft Windows Server 2016 をサポートしません。


12.インストール完了 ページが表示されます。**完了** をクリックしてインストールを完了させます。

 **注:** インストール時にファイルを更新できなかった場合 (システム ライブラリが Windows によってロックされていた場合など)、コンピュータを再起動するようにプロンプトが表示されます。この場合、コンピュータを再起動しないと、Silk Performer へのアクセスに問題が発生する可能性があります。

 **注:** インストールに失敗した場合は、インストール フォルダにあるログ ファイル (Install.log) を参照できます。


エージェントのみのインストール

負荷テスト エージェントとして使用するコンピュータそれぞれに、Silk Performer エージェント ソフトウェアをインストールする必要があります。エージェント ソフトウェアは、リモート コンピュータで Silk Performer スクリプトを実行するために使用されます。

 **注:** 問題が発生する可能性を避けるため、権限に制約のない管理者アカウントでインストールを実行してください。

1. Silk Performer のインストーラをダウンロードしたら、ダブルクリックしてセットアップ ウィザードを開始します。
2. **著作権情報** ページが開きます。**次へ** をクリックして **開始画面** を読み、再度 **次へ** をクリックします。
3. **使用許諾契約** ページが開きます。使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。使用許諾契約の条項に同意する場合は、**使用許諾契約の条項に同意する** チェック ボックスをオンにして、**次へ** をクリックします。
4. **Silk Performer 21.0 エージェント インストール** セットをクリックして Silk Performer エージェント ソフトウェアをインストールし、**次へ** をクリックします。
5. **インストール フォルダの選択** ページが表示されます。インストール フォルダを指定します。
 - a) **選択** をクリックします。
 - b) インストール フォルダを指定します。
 - c) **OK** をクリックします。
 - d) デフォルトのインストール フォルダに戻す場合は、**デフォルト フォルダに復元** をクリックします。

 **注:** 製品 (たとえば、Silk Performer や TrueLog Explorer など) のサブフォルダは、自動的に作成されます。


 **注:** Silk Performer は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。


6. デスクトップにショートカット アイコンを作成するかどうかを選択し、**次へ** をクリックします。
7. **インストール前の要約** ページで情報を確認します。


- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

インストール中 ページの進捗バーにより、インストール処理の状況が分かります。


8. **ネットワーク エミュレーション ドライバのインストール** ページが開きます (このページは、Microsoft Windows 10 や Microsoft Windows Server 2016 では表示されません)。ネットワーク エミュレーション ドライバは、パケットの転送遅延や損失をシミュレートするために必要です。ネットワーク帯域幅のシミュレーションには必要ありません。次のいずれかのオプションを選択して、**次へ** をクリックします。
 - **ネットワーク エミュレーション ドライバをインストールする**
 - **ネットワーク エミュレーション ドライバをインストールしない**


 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバのインストールおよびアンインストール時に、ネットワークが一時的に切断されます。

 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバは、すべてのネットワーク アダプタと互換性があるわけではありません。互換性がない場合、マシンまたはネットワークにアクセスできなくなったり、ネットワーク速度が低下する場合があります。

 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバは、Microsoft Windows 10 および Microsoft Windows Server 2016 をサポートしません。

9. **インストール完了** ページが表示されます。**完了** をクリックしてインストールを完了させます。


 **注:** インストール時にファイルを更新できなかった場合 (システム ライブラリが Windows によってロックされていた場合など)、コンピュータを再起動するようにプロンプトが表示されます。この場合、コンピュータを再起動しないと、Silk Performer へのアクセスに問題が発生する可能性があります。

 **注:** インストールに失敗した場合は、インストール フォルダにあるログ ファイル (Install.log) を参照できます。

SOA Edition のインストール

Silk Performer SOA Edition でインストールされる機能は次のとおりです。

- SOA Workbench
- Silk Performer エージェント
- Performance Explorer
- TrueLog Explorer
- Java Explorer
- .NET Explorer
- Java のサンプル
- .NET のサンプル

 **注:** 問題が発生する可能性を避けるため、権限に制約のない管理者アカウントでインストールを実行してください。

1. Silk Performer のインストーラをダウンロードしたら、ダブルクリックしてセットアップ ウィザードを開始します。

2. **著作権情報** ページが開きます。**次へ** をクリックして **開始画面** を読み、再度 **次へ** をクリックします。

3. **使用許諾契約** ページが開きます。使用許諾契約の条項を注意深くお読みください。使用許諾契約の条項に同意する場合は、**使用許諾契約の条項に同意する** チェック ボックスをオンにして、**次へ** をクリックします。

4. **Silk Performer 21.0 SOA Edition** インストール セットを選択して、**次へ** をクリックします。

5. **インストールのカスタマイズ** ページが表示されます。インストールするコンポーネントを選択し、**次へ** をクリックします。

- **Silk Performer 21.0 SOA Edition:** Java アプリケーションおよび .NET アプリケーションの負荷テストを行えるように完全な Silk Performer SOA Edition 環境をインストールする場合は、このオプションを選択します。

- **高度なインストール:** Java アプリケーションの負荷テストを行うツールや .NET アプリケーションをテストするためのツールを個別にインストールする場合は、このオプションを選択します。


6. **インストール フォルダの選択** ページが表示されます。インストール フォルダを指定します。


a) **選択** をクリックします。

b) インストール フォルダを指定します。

c) **OK** をクリックします。

d) デフォルトのインストール フォルダに戻す場合は、**デフォルト フォルダに復元** をクリックします。

 **注:** 製品（たとえば、Silk Performer や TrueLog Explorer など）のサブフォルダは、自動的に作成されます。

 **注:** Silk Performer は、ローカル ドライブにインストールしなければなりません。

7. デスクトップにショートカット アイコンを作成するかどうかを選択し、**次へ** をクリックします。

8. **インストール前の要約** ページで情報を確認します。

- 設定を変更するには、**前へ** をクリックして、適切なページに戻ります。
- 必要な設定を終えたら、**インストール** をクリックして、インストール処理を開始します。

インストール中 ページの進捗バーにより、インストール処理の状況が分かります。

9. **ライセンス モードの選択** ページが開きます。次のいずれかのオプションを選択して、**次へ** をクリックします。

- **評価版** - Silk Performer の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。使用は 10 仮想ユーザーに制限されています。後から、製品版へのアップグレードをご希望の場合には、営業担当までお問い合わせください。
- **ライセンス版** - Silk Performer ライセンスが必要な Silk Performer の無制限版をインストールします。

10. インストール中に選択したコンポーネントによっては、**ライセンス オプションの選択** ページが開く場合があります。ライセンス管理を必要とするコンポーネントをインストールしておらず、このページが開かない場合は、次のステップに進んでください。次のいずれかのオプションを選択して、**次へ** をクリックします。


- **ローカルまたはリモート サーバーを使用する** : **ライセンス サーバー ホスト** フィールドに、Silk Meter または AutoPass がインストールされているコンピュータの名前を入力します。ネットワーク管理者が別のポートを定義したのでない限り、デフォルト ポート番号 (Silk Meter の場合は 5461、AutoPass の場合は 5814) は変更しないでください。**接続のテスト** をクリックして、指定したホストとポートでライセンス サーバーがアクセス可能かどうかを確認します。


 **注:** 場合により、**ライセンス サーバー ホスト** フィールドに、ライセンス サーバーの名前を licenseserver など単純な名前指定すると、うまくいかない場合があります。Silk Meter ライセンス サーバーとの接続に失敗しました というメッセージ ボックスが開きます。この問題を解決するには、licenseserver.mycompany.com など、完全修飾名によるホスト名を再度指定してください。


- **スタンドアロン ライセンスを使用する** : Silk Meter をスタンドアロンで実行します。**選択** ボタンを使用して、Silk Meter ライセンス ファイルの場所を指定します。

11. **ネットワーク エミュレーション ドライバのインストール** ページが開きます（このページは、Microsoft Windows 10 や Microsoft Windows Server 2016 では表示されません）。ネットワーク エミュレーション ドライバは、パケットの転送遅延や損失をシミュレートするために必要です。ネットワーク帯域幅のシミュレーションには必要ありません。次のいずれかのオプションを選択して、**次へ** をクリックします。


- **ネットワーク エミュレーション ドライバをインストールする**
- **ネットワーク エミュレーション ドライバをインストールしない**


 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバのインストールおよびアンインストール時に、ネットワークが一時的に切断されます。

 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバは、すべてのネットワーク アダプタと互換性があるわけではありません。互換性がない場合、マシンまたはネットワークにアクセスできなくなったり、ネットワーク速度が低下する場合があります。

 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバは、Microsoft Windows 10 および Microsoft Windows Server 2016 をサポートしません。


12. **インストール完了** ページが表示されます。**完了** をクリックしてインストールを完了させます。

 **注:** インストール時にファイルを更新できなかった場合 (システム ライブラリが Windows によってロックされていた場合など)、コンピュータを再起動するようにプロンプトが表示されます。この場合、コンピュータを再起動しないと、Silk Performer へのアクセスに問題が発生する可能性があります。

 **注:** インストールに失敗した場合は、インストール フォルダにあるログ ファイル (Install.log) を参照できます。

サイレント モードでの Silk Performer のインストール

セットアップを使って、ユーザーの操作なしで Silk Performer をインストールすることができます。この機能は「サイレント モード インストール」と呼ばれ、特に、LAN やインターネット上で、リモートインストール ツールなどを介してソフトウェアを配布する場合などに便利です。

 **注:** 問題が発生する可能性を避けるため、権限に制約のない管理者アカウントでインストールを実行してください。

1. ファイル マネージャでインストール ファイルを保存したフォルダを開きます。
2. このフォルダに新しいテキスト ファイルを作成し、silent.properties という名前に変更してからテキスト エディタで開きます。
3. 次のテキスト行をコピーしファイルに貼り付けます。

```
INSTALLER_UI=silent

#Choose locale
#-----
INSTALLER_LOCALE=en

#Choose installation set
#-----
CHOSEN_INSTALL_SET=ENTERPRISE

#Choose installation folder
#-----
#USER_INSTALL_DIR=C:¥¥Silk
CREATE_DESKTOP_ICON=1

#Choose licensing mode
#-----
USER_INPUT_RESULT_EVAL=0
USER_INPUT_RESULT_FULL=1

#Licensing settings
#-----
SILKMETER_RUN_AUTOPASS_LICENSING=false
SILKMETER_RUN_STANDALONE=false
SILKMETER_LICENSESERVER_HOST=localhost
SILKMETER_LICENSESERVER_PORT=5461
AUTOPASS_LICENSESERVER_HOST=localhost
AUTOPASS_LICENSESERVER_PORT=5814

#User data collection
#-----
ALLOW_USER_DATA_COLLECTION=1

#Network emulation driver installation
#-----
```

```
#Remove the comment in the following line to allow the driver installation
#INSTALL_NETWORKEMULATION_DRIVER=true
```

4. 必要に応じてパラメータを変更します。

- `INSTALLER_LOCALE` : 言語を指定します。
 - `en` : 英語版をインストールします。これは、デフォルトの設定です。
 - `ja` : 日本語版をインストールします。
 - `zh_CN` : 簡体字中国語版をインストールします。
- `CHOSEN_INSTALL_SET` : 以下のインストールセットのいずれか 1 つを指定します。
 - `ENTERPRISE` : Silk Performer 環境を完全インストールします。
 - `SOA` : Silk Performer SOA Edition をインストールします。
 - `エージェント` : Silk Performer エージェント ソフトウェアのみをインストールします。
- `USER_INSTALL_DIR` : Silk をインストールするフォルダを指定します。フォルダの区切り文字には、2 重のバックスラッシュ (¥¥) を使用してください。デフォルトの設定は、`C:¥¥Program Files ¥¥Silk (32 ビット OS)`、または `C:¥¥Program Files (x86)¥¥Silk (64 ビット OS)` です。
- `CREATE_DESKTOP_ICON` : デスクトップ アイコンを作成する場合は 1、作成しない場合は 0 に設定します。デフォルト値は、1 です。
- `USER_INPUT_RESULT_EVAL` : 1 に設定して Silk Performer の評価版をインストールすると、製品のすべての機能を 45 日間使用できます。
- `USER_INPUT_RESULT_FULL` : 1 に設定して Silk Performer の無制限版をインストールします (Silk Performer ライセンスが必要です)。



注: `USER_INPUT_RESULT_FULL` または `USER_INPUT_RESULT_EVAL` のいずれかを 1 に設定する必要があります。その他は 0 に設定してください。

- `SILKMETER_RUN_AUTOPASS_LICENSING` : AutoPass ライセンス テクノLOGYを使用する場合は、`true` に設定します。
- `SILKMETER_RUN_STANDALONE` : スタンドアロン ライセンスを使用する場合は、`true` に設定します。Silk Meter または AutoPass ライセンス サーバーを使用する場合は、`false` に設定します。
- `SILKMETER_LICENSESERVER_HOST` : Silk Meter ライセンス サーバーをホストするコンピュータの名前を指定します。`SILKMETER_RUN_STANDALONE` を `true` に設定した場合は、このパラメータは無視されます。
- `SILKMETER_LICENSESERVER_PORT` : Silk Meter ライセンス サーバーがリスンするポート番号を指定します。`SILKMETER_RUN_STANDALONE` を `true` に設定した場合は、このパラメータは無視されます。
- `AUTOPASS_LICENSESERVER_HOST` : AutoPass ライセンス サーバーをホストするコンピュータの名前を指定します。`SILKMETER_RUN_STANDALONE` を `true` に設定した場合は、このパラメータは無視されます。
- `AUTOPASS_LICENSESERVER_PORT` : AutoPass ライセンス サーバーがリスンするポート番号を指定します。`SILKMETER_RUN_STANDALONE` を `true` に設定した場合は、このパラメータは無視されます。
- `ALLOW_USER_DATA_COLLECTION` : 0 に設定すると、ユーザー データの収集が無効になります。デフォルト値は、1 です。有効にすると、Silk Performer は、ツールの機能の使用状況に関するデータを収集します。ユーザーを特定する情報は一切含まれません。収集されたデータは、R&D チームに送信され、今後の開発における製品改良の参考として使用させていただきます。
- `INSTALL_NETWORKEMULATION_DRIVER` : `true` に設定すると、ネットワーク エミュレーション機能がインストールされます。ネットワーク エミュレーションで問題が発生し、この機能が必要ない場合は、このインストールの手順は省略できます。デフォルト値は、`false` です。



注: ネットワーク エミュレーション ドライバのインストールおよびアンインストール時に、ネットワークが一時的に切断されます。



注: ネットワーク エミュレーション ドライバは、すべてのネットワーク アダプタと互換性があるわけではありません。互換性がない場合、マシンまたはネットワークにアクセスできなくなったり、ネットワーク速度が低下する場合があります。



注: ネットワーク エミュレーション ドライバは、Microsoft Windows 10 および Microsoft Windows Server 2016 をサポートしません。

5. ファイルを保存して閉じます。
6. コマンドライン プロンプトを開いて、セットアップ ファイルと properties ファイルのあるフォルダに移動します。
7. 次のコマンドを入力します。

```
silkperformer-<version>.exe -f c:¥<your directory>¥silent.properties
```



注: インストーラ パッケージの実際のバージョン番号で <version> を置き換えてください。

インストールが完了したかどうかを確認するには、**Windows タスク マネージャ** を開いて、**プロセス** タブをクリックします。Silk Performer インストール プロセスが表示されなくなったら、インストールは完了です。

Silk Performer をサイレント モードでアンインストールするには、コマンドライン プロンプトを開き、次のフォルダに移動します：

```
<Silk installation folder>¥Silk Performer 21.0¥_Silk Performer 21.0_installation
```

続いて、次のコマンドを入力します。

```
"Change Silk Performer 21.0 Installation.exe" -i silent
```


オプションコンポーネントのインストール

TrueLog Explorer のインストール

TrueLog Explorer のインストーラの名前は、`silktruelogexplorer-210.exe` です。TrueLog Explorer のインストールは、セットアップを開始して、セットアップ ウィザードが表示する手順に従ってください。

サイレントモードでの TrueLog Explorer のインストール

TrueLog Explorer のセットアップは、サイレントモードでインストールを行うこともできます。

 **注:** 問題が発生する可能性を避けるため、権限に制約のない管理者アカウントでインストールを実行してください。

1. ファイル マネージャでインストール ファイルを保存したフォルダを開きます。
2. このフォルダに新しいテキスト ファイルを作成し、`silent.properties` という名前に変更してからテキスト エディタで開きます。
3. 次のテキスト行をコピーしファイルに貼り付けます。

```
INSTALLER_UI=silent
```

```
#USER_INSTALL_DIR=C:¥¥Silk  
#CREATE_DESKTOP_ICON=0
```

4. 必要に応じて次のパラメータを変更します。パラメータを削除したり、先頭にハッシュ文字 (#) を追加してコメントにすると、そのデフォルト値が使用されます。

- `USER_INSTALL_DIR` : Silk をインストールするフォルダを指定します。フォルダの区切り文字には、2 重のバックスラッシュ (¥¥) を使用してください。デフォルトの設定は、`C:¥¥Program Files ¥¥Silk` (32 ビット OS)、または `C:¥¥Program Files (x86)¥¥Silk` (64 ビット OS) です。
- `CREATE_DESKTOP_ICON` : デスクトップ アイコンを作成する場合は 1、作成しない場合は 0 に設定します。デフォルト値は、1 です。

5. ファイルを保存して閉じます。
6. コマンドライン プロンプトを開いて、セットアップ ファイルと `properties` ファイルのあるフォルダに移動します。
7. 次のコマンドを入力します。

```
silktruelogexplorer-210.exe -f silent.properties
```

インストールが完了したかどうかを確認するには、**Windows タスク マネージャ** を開いて、**プロセス** タブをクリックします。TrueLog Explorer インストール プロセスが表示されなくなったら、インストールは完了です。

ネットワーク エミュレーション ドライバのインストール


ネットワーク エミュレーション ドライバは、パケットの転送遅延や損失をシミュレートするために必要です。ネットワーク帯域幅のシミュレーションには必要ありません。


1. 管理者特権でコマンド プロンプトを開きます。メニューでコマンド プロンプトを右クリックし、**管理者として実行** をクリックします。


2. 次のようなコマンドを実行して、Silk Performer のインストール フォルダに移動します: `c:¥> cd "c:¥Program Files (x86)¥Silk¥Silk Performer 21.0¥NetworkDriver"`

3. 次のコマンドを実行します。

- ネットワーク エミュレーション ドライバを手動でインストールするには:
`installNetworkDriver.exe -i netipfw.inf`
- ネットワーク エミュレーション ドライバを手動でアンインストールするには:
`installNetworkDriver.exe -u`

 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバのインストールおよびアンインストール時に、ネットワークが一時的に切断されます。

 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバは、すべてのネットワーク アダプタと互換性があるわけではありません。互換性がない場合、マシンまたはネットワークにアクセスできなくなったり、ネットワーク速度が低下する場合があります。

 **注:** ネットワーク エミュレーション ドライバは、Microsoft Windows 10 および Microsoft Windows Server 2016 をサポートしません。

Visual Studio 拡張機能のインストール

デフォルトでは、Silk Performer インストーラは Silk Performer Visual Studio 拡張機能をインストールしません。Silk Performer .NET Framework プロジェクトを Visual Studio で作成し、実行するには、拡張機能をインストールする必要があります。

1. Silk Performer のインストール ディレクトリで、`Templates¥DotNet` を開きます。
2. `SpVsExtension.vsix` ファイルを実行します。

Eclipse プラグインのインストール

Eclipse プラグインは、[製品更新サイト](#) からダウンロードできます。

あらかじめ、Eclipse SDK と Silk Performer がコンピュータにインストールされている必要があります。インストールを開始する前に、少なくとも一度は Silk Performer を実行してください。

1. 標準的な Eclipse プラグインのインストール手順を使用して、Eclipse SDK ([ヘルプ](#) > **新規ソフトウェアのインストール**) からプラグインをインストールします。
Eclipse にプラグインをインストールする方法について不明な点がある場合は、Eclipse のドキュメントを参照してください。
2. 追加するサイトの確認が表示されたら、Silk PerformerExtras フォルダに含まれるサイトを指定します。
Extras フォルダは Silk Performer インストール フォルダにあります。
3. Silk PerformerExtras ディレクトリ内の Eclipse プラグイン ディレクトリ (`.../Extras/eclipseplugin/`) を参照して選択します。
4. **カテゴリーで項目を分類** チェック ボックスがオンになっていないことを確認します。
5. Silk Performer Eclipse プラグインが一覧表示されたら、新しいローカル サイトのプラス記号をクリックして、内容を展開します。
6. プラグイン フィーチャー (**Silk Performer Feature** のチェック ボックスをオンにして、**次へ** をクリックします。 **インストール** ダイアログが開きます。
7. **次へ** をクリックします。 **インストール** ダイアログに使用許諾契約の説明が表示されます。
8. 使用許諾契約の条件に同意する場合は、**使用条件の条項に同意します** チェック ボックスをオンにして、**終了** をクリックします。

9. **はい** をクリックして、Eclipse ワークベンチを再起動します。Eclipse ワークベンチが再起動すると、Eclipse ワークベンチに Silk Performer のメニュー項目が表示されます。

ShopIt V 6.0 のインストール

Silk Performer には、ShopIt V 6.0 というサンプル Web アプリケーションがあります。ShopIt V 6.0 は、擬似的なオンラインショッピングのためのキャンピング用品カタログを持つ、簡単な e コマースの Web サイト をシミュレートするものです。このアプリケーションを使用すると、Silk Performer の Web アプリケーション機能を試すことができます。ShopIt V 6.0 は、不明な Web リンク (商品の在庫切れが原因) やセッション エラーなどのエラーを生成するように作られています。

ShopIt V 6.0 をインストールする前に『リリース ノート』を参照し、お使いのシステムで ShopIt V 6.0 がサポートされているか確認してください。

ShopIt V 6.0 のセットアップは、[製品更新サイト](#) からダウンロードできます。

1. ShopItV60.exe ファイルをダブルクリックします。



注: IIS (Internet Information Server) がコンピュータにインストールされている必要があります。IIS 7 では、Role Services ASP と ISAPI Extensions もインストールします。

2. **Welcome** ページが開きます。**次へ** をクリックします。
3. **Choose Destination Location** ページが開きます。デフォルトのインストール ディレクトリを変更する場合は、**参照** をクリックしてフォルダを選択し、**OK** をクリックします。**次へ** をクリックします。
4. Web アプリケーションの仮想ディレクトリの名前を入力します。これは Web サーバー上に作成されるディレクトリの名前です。**次へ** をクリックします。
5. セットアップによりファイルがインストールされ、IIS で ShopIt V 6.0 Web アプリケーションが実行されるように設定されます。
6. **インストール完了** ダイアログが表示されます。**完了** をクリックします。
7. IIS 7 の場合、仮想ディレクトリを IIS に手動で追加します。
 - エイリアス : ShopItV60
 - 物理パス : ShopIt のインストール ディレクトリ



注: ASP が IIS で利用可能なことを確認してください。

これで、ShopIt V 6.0 Web アプリケーションが使用できる状態になりました。選択した Web ブラウザで次の URL を入力して、ShopIt V 6.0 にアクセスできます。

```
http://<computer name>/<virtual directory name>/
```

コンピュータ名が JohnSmith で、仮想ディレクトリのデフォルト値 ShopItV60 を変更していない場合、URL は次のようになります。

```
http://JohnSmith/ShopItV60/
```

リモートコンピュータ上でエージェントソフトウェアのインストール

Silk Performer にはコマンドライン ツールが付属しており、ユーザーの Windows ドメインまたはワークグループ内のリモート マシン上で Silk Performer エージェント ソフトウェアをセットアップできます。


リモート インストール処理を問題なく行うため、リモート マシンで次の事項を確認してください。

- Windows ファイアウォールが無効化されていること
- ユーザー アカウント制御を無効にするか、リモート インストールで組み込みの管理者アカウントを使用すること

リモート インストール


Silk Performer コマンド ライン ツールを使用すると、リモート エージェント コンピュータ上のエージェントソフトウェアをインストールおよびアンインストールできます。リモート エージェント コンピュータは、インターネット上の任意の場所に配置することができます。

コマンド ライン ツールに利用できるすべてのパラメータを表示するには、コマンド ラインを開き、インストール フォルダに移動して perfRsManager.exe を実行します。

 **注:** コマンドライン ツールは Silk Performer のインストール サブディレクトリから起動する必要があります。

perfRsManager のパラメータ

以下のパラメータを利用できます。

 **注:** -mode および -host は必須です。その他のパラメータはすべてオプションです。

-mode	<ul style="list-style-type: none">• -i: エージェントソフトウェアをリモート エージェント コンピュータにインストールします。• -u: エージェントソフトウェアをリモート エージェント コンピュータで更新します。• -r: エージェントソフトウェアをリモート エージェント コンピュータからアンインストールします。
-host <hostname>	リモート エージェント コンピュータのホスト名または IP アドレス。
-log	インストール ログ ファイルを ¥Users¥Public ¥Documents¥Silk Performer <version>¥Logs ディレクトリに出力します。ログ ファイルは、perfRsManager_<hostname>.log という名前になります。例: エージェントソフトウェアを lab15 というホストにインストールすると、ログ ファイルの名前は perfRsManager_lab15.log になります。
-user <user>	Windows ドメイン ユーザーの名前。リモート アクセスでは、リモート エージェント コンピュータで管理者権限を持つユーザーを指定する必要があります。

-domain <domain>	指定されたユーザーが属する Windows ドメインの名前またはホスト名。ユーザーが、インストールを起動したコンピュータと同じドメインに属する場合、このパラメータを省略します。
-userAgent <user>	エージェントを実行する Windows ユーザー アカウント名。
-pwdUserAgent <password>	リモート コンピュータにログインする Windows ユーザー アカウントのパスワード。
-pwdUser <password>	指定したユーザーのパスワード。パスワードが不要な場合は、このパラメータを省略できます。
-port <port>	リモート エージェント コンピュータが応答するポートの番号。デフォルトにポート番号は、19200 です。
-ssl	リモート エージェント コンピュータとの通信に SSL を使用します。SSL を使用する場合、リモート エージェント コンピュータとは、セキュアな接続のためのデフォルトポート (ポート 19201) で通信します。エージェント コンピュータがそれとは別のポートに応答する場合は、そのポート番号を -port パラメータで指定する必要があります。
-httpProxy <name> <port>	リモート コンピュータとの通信に介在する HTTP プロキシの名前とポート番号。
-socksProxy <name> <port>	リモート コンピュータとの通信に介在する SOCKS プロキシの名前とポート番号。
-pwdService <password>	リモート コンピュータ上のエージェント ソフトウェアを許可のないアクセスから保護するためのパスワード。
-userAgent <user>	エージェントを実行するユーザー。
-pwdUserAgent <password>	リモート エージェント コンピュータにログインするパスワード。
-package <package file name>	リモート エージェント インストーラ パッケージ ファイルの名前。このパラメータは、リモート エージェントにホットフィックスをインストールする場合に設定する必要があります。また、ホットフィックス ファイルの EXE の名前と一致させる必要があります。ホットフィックス パッケージが perfRsManager と同じフォルダにない場合は、完全修飾パスで名前を指定してください。
-silkInstallPath <path>	リモート エージェント コンピュータのターゲット インストールパス。例 : -silkInstallPath "C:¥Silk¥Silk Performer"
-silkWorkingDir <path>	リモート エージェント コンピュータの作業ディレクトリ。例 : -silkWorkingDir "C:¥WorkingDir"
-installNetworkEmulationDriver	ネットワーク エミュレーション機能をインストールするには、このパラメータを使用します。
-stopSilkExecutionServer	Silk 実行サーバーが実行中の場合には、停止してから開始します。

使用例

```
perfRsManager -i -host deepblue
```

```
perfRsManager -i -host deepblue -log -domain intra  
-user nobody -pwdUser 1234
```

```
perfRsManager -i -host deepblue -user alex -domain test  
-pwdUser 1234
```

```
perfRsManager -i -host 192.168.20.11
```

```
perfRsManager -i -host deepblue -log -ssl -port 19251  
-socksproxy 192.168.20.111 1080  
-pwdService 1rt34xy
```

```
perfRsManager -r -host deepblue -httpproxy proxy1 8080 -log
```

```
perfRSManger -u -host deepblue -user alex -pwdUser 1234 -domain test  
-package "c:¥temp¥silkperformer-21.0-hf1.exe"
```

シナリオ

このセクションでは、さまざまなネットワーク環境において、リモートエージェントのセットアップを利用して、Silk Performer エージェントソフトウェアをリモートコンピュータへインストール、再インストール、およびアンインストールする方法について説明します。

- シナリオ 1: コントローラとエージェント コンピュータが同一の Windows ドメインまたはワークグループにある。
- シナリオ 2: コントローラとエージェント コンピュータが別の Windows ドメインまたはワークグループにある。
- シナリオ 3: コントローラ コンピュータを管理するユーザーはローカルにログオンし、それゆえ、ドメインにはログオンしない。
- シナリオ 4: 別の LAN にあるコントローラとエージェント コンピュータがインターネットを利用して接続されている。
- シナリオ 5: 別の LAN にあるコントローラとエージェント コンピュータがインターネットを利用して接続されている。少なくとも、一方の LAN はファイアウォールで保護されており、コントローラとエージェント コンピュータは HTTP プロキシ経由で通信する必要がある。
- シナリオ 6: 別の LAN にあるコントローラとエージェント コンピュータがインターネットを利用して接続されている。少なくとも、一方の LAN はファイアウォールで保護されており、コントローラとエージェント コンピュータは SOCKS プロキシ経由で通信する必要がある。

シナリオ 1: 1 つのドメインまたはワークグループ

シナリオ 1 では、コントローラとエージェント コンピュータが同一の Windows ドメインまたはワークグループにあります。

コントローラ コンピュータから、リモート エージェント コンピュータ (<agent name>) 上の Silk Performer エージェント ソフトウェアをインストール、再インストール、またはアンインストールできます。

エージェント ソフトウェアをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -i -host <agent name> -log
```

このコマンドによりリモート コンピュータから設定や再起動ができるようにエージェント コンピュータをセットアップします。

エージェント ソフトウェアを再インストールもしくは削除するには、エージェント ソフトウェアが応答するポート (<port number>) を知っておく必要があります。デフォルトでは、エージェントはポート

19200 を使用します。エージェント ソフトウェアを許可のないアクセスから保護するために、パスワードを使っている場合には、それもお知らせしなければなりません (<password>)。

エージェント ソフトウェアをアップグレードするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -i -host <agent name> -port <port number>
                -pwdService <password> -log
```

エージェント ソフトウェアがデフォルト ポートで応答する場合には、-port パラメータを省略できます。

前述のコマンドは、インストールまたはアンインストール プロセスに関する詳細情報を含むログ ファイルを生成します。これらのログ ファイルを生成しない場合は、-log パラメータを省略します。

シナリオ 2 : 2 つのドメインまたはワークグループ

コントローラとエージェント コンピュータが別の Windows ドメインまたはワークグループにあるシナリオについて説明します。

シナリオ 2 では、コントローラとエージェント コンピュータが別の Windows ドメインまたはワークグループにあります。

コントローラ コンピュータから、リモート ドメインまたはワークグループ (<domain name>) にあるエージェント コンピュータ (<agent name>) 上の Silk Performer エージェント ソフトウェアをインストール、再インストール、およびアンインストールできます。エージェント ソフトウェアをインストールするには、エージェント コンピュータがあるドメインまたはワークグループにおいて管理者権限のあるユーザー (とそのパスワード) を指定する必要があります (<user name>、<password>)。

エージェント ソフトウェアをインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -i -host <agent name> -user <user name>
                -domain <domain name> -pwdUser <password> -log
```

このコマンドによりリモート コンピュータから設定や再起動ができるようにエージェント コンピュータをセットアップします。

エージェント ソフトウェアを再インストールもしくは削除するには、エージェント ソフトウェアが応答するポート (<port number>) を知っておく必要があります。デフォルトでは、エージェントはポート 19200 を使用します。エージェント ソフトウェアを許可のないアクセスから保護するために、パスワードを使っている場合には、それもお知らせしなければなりません (<password>)。

エージェント ソフトウェアを再インストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -i -host <agent name> -port <port number>
                -pwdService <password> -log
```

エージェント ソフトウェアがデフォルト ポートで応答する場合には、-port パラメータを省略できます。

コンピュータからエージェント ソフトウェアをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -r -host <agent name> -port <port number>
                -pwdService <password> -log
```

エージェント ソフトウェアがデフォルト ポートで応答する場合には、-port パラメータを省略できます。

前述のコマンドは、インストールまたはアンインストール プロセスに関する詳細情報を含むログ ファイルを生成します。これらのログ ファイルを生成しない場合は、-log パラメータを省略します。

シナリオ 3 : ユーザーがローカルにログオンする

シナリオ 3 では、ユーザーは、コントローラ コンピュータにローカルでログオンし、ドメインにはログオンしません。

コントローラ コンピュータから、リモート ドメインまたはワークグループ (<domain name>) にあるエージェント コンピュータ (<agent name>) 上の Silk Performer エージェント ソフトウェアをインストール

ール、再インストール、およびアンインストールできます。エージェントソフトウェアをインストールするには、エージェント コンピュータがあるドメインまたはワークグループにおいて管理者権限のあるユーザー (user name) と、そのパスワード (password) を指定する必要があります。

エージェントソフトウェアをインストールまたは再インストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -i -host <agent name> -user <user name>
                -domain <domain name> -log
```

このコマンドによりリモート コンピュータから設定や再起動ができるようにエージェント コンピュータをセットアップします。

エージェントソフトウェアを再インストールもしくは削除するには、エージェントソフトウェアが応答するポート (<port number>) を知っておく必要があります。デフォルトでは、エージェントはポート 19200 を使用します。エージェントソフトウェアを許可のないアクセスから保護するために、パスワードを使っている場合には、それもお知っておかなければなりません (<password>)。

エージェントソフトウェアをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -r -host <agent name> -port <port number>
                -pwdService <password> -log
```

エージェントソフトウェアがデフォルト ポートで応答する場合には、-port パラメータを省略できます。

前述のコマンドは、インストールまたはアンインストール プロセスに関する詳細情報を含むログ ファイルを生成します。これらのログ ファイルを生成しない場合は、-log パラメータを省略します。

シナリオ 4 : インターネットを利用して接続された 2 つの LAN

シナリオ 4 では、別の LAN にあるコントローラとエージェント コンピュータがインターネットに接続されています。

コントローラ コンピュータから、リモート エージェント コンピュータ (<agent name>) 上の Silk Performer エージェントソフトウェアをインストールまたはアンインストールできます。

エージェントソフトウェアが応答するポート (<port number>) を知っておく必要があります。デフォルトでは、エージェントは、非セキュア通信にポート 19200、セキュア通信にポート 19201 を使用します。エージェントソフトウェアを許可のないアクセスから保護するために、パスワードを使っている場合には、それもお知っておかなければなりません (<password>)。

エージェントソフトウェアをインストールまたは再インストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -i -host <agent name> -port <port number>
                -pwdService <password> -ssl -log
```

エージェントソフトウェアをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -r -host <agent name> -port <port number>
                -pwdService <password> -ssl -log
```

エージェントソフトウェアがデフォルト ポートで応答する場合には、-port パラメータを省略できます。さらに、セキュア通信チャネルでの通信を必要としない場合には、-ssl パラメータを省略します。

前述のコマンドは、インストールまたはアンインストール プロセスに関する詳細情報を含むログ ファイルを生成します。これらのログ ファイルを生成しない場合は、-log パラメータを省略します。

シナリオ 5 : HTTP プロキシを利用して接続された 2 つの LAN

シナリオ 5 では、別の LAN にあるコントローラとエージェント コンピュータがインターネットに接続されています。少なくとも、一方の LAN はファイアウォールで保護されており、コントローラとエージェント コンピュータは HTTP プロキシ経由で通信する必要があります。

コントローラ コンピュータから、リモートエージェント コンピュータ (<agent name>) 上の Silk Performer エージェント ソフトウェアをインストールまたはアンインストールできます。通信は、HTTP プロキシ経由で行われます (<proxy name>、<proxy port>)。エージェント ソフトウェアを再インストールもしくは削除するには、エージェント ソフトウェアが応答するポート (<agent port>) を知っておく必要があります。デフォルトでは、エージェントは、非セキュア通信にポート 19200、セキュア通信にポート 19201 を使用します。エージェント ソフトウェアを許可のないアクセスから保護するために、パスワードを使っている場合には、それを知っておかなければなりません (<password>)。

エージェント ソフトウェアをインストールまたは再インストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -i -host <agent name> -port <agent port>
                -pwdService <password> -ssl -log
                -httpProxy <proxy name> <proxy port>
```

エージェント ソフトウェアをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -r -host <agent name> -port <agent port>
                -pwdService <password> -ssl -log
                -httpProxy <proxy name> <proxy port>
```

エージェント ソフトウェアがデフォルト ポートで応答する場合には、-port パラメータを省略できます。さらに、セキュア通信チャネルでの通信を必要としない場合には、-ssl パラメータを省略します。

前述のコマンドは、インストールまたはアンインストール プロセスに関する詳細情報を含むログ ファイルを生成します。これらのログ ファイルを生成しない場合には、-log パラメータを省略します。

シナリオ 6 : SOCKS プロキシを利用して接続された 2 つの LAN

シナリオ 6 では、別の LAN にあるコントローラとエージェント コンピュータがインターネットに接続されています。少なくとも、一方の LAN はファイアウォールで保護されており、コントローラとエージェント コンピュータは SOCKS プロキシ経由で通信する必要があります。

コントローラ コンピュータから、リモートエージェント コンピュータ (<agent name>) 上の Silk Performer エージェント ソフトウェアをインストールまたはアンインストールできます。通信は、SOCKS プロキシ経由で行われます (<proxy name>、<proxy port>)。エージェント ソフトウェアを再インストールもしくは削除するには、エージェント ソフトウェアが応答するポート (<agent port>) を知っておく必要があります。デフォルトでは、エージェントは、非セキュア通信にポート 19200、セキュア通信にポート 19201 を使用します。エージェント ソフトウェアを許可のないアクセスから保護するために、パスワードを使っている場合には、それを知っておかなければなりません (<password>)。

エージェント ソフトウェアをインストールまたは再インストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -u -host <agent name> -port <agent port>
                -pwdService <password> -ssl -log
                -socksProxy <proxy name> <proxy port>
```

エージェントソフトウェアをアンインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
PerfRsManager -r -host <agent name> -port <agent port>
                -pwdService <password> -ssl -log
                -socksProxy <proxy name> <proxy port>
```

エージェントソフトウェアがデフォルトポートで応答する場合には、-port パラメータを省略できます。さらに、セキュア通信チャネルでの通信を必要としない場合には、-ssl パラメータを省略します。

前述のコマンドは、インストールまたはアンインストールプロセスに関する詳細情報を含むログ ファイルを生成します。これらのログ ファイルを生成しない場合は、-log パラメータを省略します。

トラブルシューティング

このセクションでは、リモートエージェントのセットアップ中に表示される可能性があるエラー メッセージと、その解決 (回避) 方法のリストを示します。

エラー メッセージ	解説
SYSTEM: 53 - ネットワーク パスが見つかりませんでした	無効なホスト名が指定されたか、ホストが到達可能ではありません。-host パラメータと、そのマシンが実行中であることを確認してください。
SYSTEM: 1326 - ユーザー名またはパスワードが正しくありません	-user および -pwduser パラメーターを確認してください。リモート マシンの組み込みの管理者の資格情報を使用している場合は、アカウントが有効であることを確認してください。
情報 : リモート マシンに接続しました。	指定した資格情報でリモート マシンに到達しましたが、指定したユーザーのアクセス許可がインストーラ プロセスの起動を認めませんでした。リモートマシンでユーザー アカウント制御 (UAC) をオフにするか、組み込みの管理者アカウントを使用してください。
警告 : Remote Registry サービスを開始できませんでした。	Remote Registry が実行中であることを確認してください。
エラー : 一時サービスのインストールと起動を行えませんでした。	
リモート セットアップに失敗しました。	
SYSTEM:5 - アクセスが拒否されました。	
システム:1219 - 入力した認証情報が、既存の認証情報セットと競合しています。対象コンピュータへのネットワーク接続が既に存在しています。	対象コンピュータへのネットワーク接続が既に存在しています。この接続は異なるユーザーとパスワードの組み合わせで確立されました。 次の DOS コマンドを実行して接続を切断します。 net use ¥¥<machine name> /delete 接続が実際に切断されたかどうかを確認するには、次の DOS コマンドを実行します： net use
PerfORB : 23 - 接続を確立することができませんでした。	リモート マシンとの接続に失敗しました。Windows ファイアウォールが無効であること、およびユーザー アカウント制御 (UAC) がオフになっていることを確認してください。
エラー : リモート マシンでリモート エージェント セットアップをインストールできませんでした。	マシンとの接続がインストール中に失われました。リモート インストーラを再度実行してください。
リモート セットアップに失敗しました。	
PerfORB : 20 - ORB が接続されていません。	